シアトル別院時報

30巻 8月号

2011年度教化標語
世の中安穏なれ

教師の握り拳

新井俊一

９月から月に一回、大学時代や高校時代の同級生、そして以前高槻で法話会をしていた時のお仲間とともに、南伝の大般涅槃経（中村元訳注『ブッダ最後の旅』岩波文庫）を読んでいます。この経典は、釈尊の最晩年での言動を記録したもので、北伝（漢訳）の大般涅槃経に比べて、生身の釈尊の息吹を感じさせられます。

この経典の中に「教師の握り拳」という言葉が出てきます。釈尊は長い間住まわれた王舎城郊外の霊鷲山を離れられ、弟子アーナンダ（阿難）を始めとする何人かの弟子とともに北へ向かわれます。途中様々な村に立ち寄られて、説法をされます。釈尊は人生の最後まで教化活動を続けられました。ある時、アーナンダは釈尊の入滅の近いことを嘆いていますが、釈尊がまだ教団の将来のことや後継者について一言もしゃべっておられないことを考えて、まだ入滅は少し先のことなのかな、と思います。すると釈尊は次のようにおっしゃいます。

「アーナンダよ。修行僧たちは私に何を期待するのあるか。私は内外の隔てなしに（ことごとく）理法を説いた。完き人の教えには、何ものかを弟子に隠すような教師の握り拳は存在しない。『私は修行僧の仲間を導くであろう』とか、あるいは『修行僧の仲間は私に頼っている』とこのように思う者こそ、修行僧の集いに関して何ごとかを語るであろう。しかし向上に努めた人は『私は修行僧の仲間を導くであろう』とか、あるいは『修行僧の仲間は私に頼っている』とか思うことがない。向上に努めた人は修行僧の集いに関して何を語るであろうか。」
（中村元訳注『ブッダ最後の旅』p. 62）

この「教師の握り拳」というのは、日本の昔の芸能人や武道家の間でも「奥義」とか「奥伝」とか言われていた

8月の予定

7日 10時 原爆被爆者追悼法要
11時 日本語法要
小杭好臣 BCA 総長
12時 帰依式
13日 日本語セミナー
ヒロタ・デニス師
14日 10時 恵信尼様/覚信尼様
顕彰法要
11時 日本語法要
ヒロタ・デニス師
21日 10時 家族法要
11時 日本語プログラム
28日 10時 家族法要
11時 日本語プログラム

ものです。師匠が人生の最後の最後まで弟子に伝えないでおき、いよいよ誰かに後を託す、という時に後継者にだけ伝えたものです。アーナンダは釈尊がまだ誰にも奥義を伝えておられないから、入滅はまだ先だろう、と考えたわけです。しかし釈尊は、自分にはそんなものはない、自分の覚りの内容は、教団の内にいるもの、在家の者と言う区別にかかわらず、すべて伝えてきた、とおっしゃいます。覚りは無限の真如を言葉にしたものですから、はじめて教えを受ける者にも、長年教えを受けてきた者にも、伝える内容に区別がない、というわけです。

これを読んでいると、『歎異抄』第二章に表された親鸞聖人の態度を思い出します。聖人の最晩年、関東の方では、念仏往生についての異義が広まり、聖人の長年の弟子たちも少し不安になります。それではるばる京都まで旅をして、聖人の本心をうかがおうとするわけですが、その人たちに向かって、開口一番次のようにおっしゃいます。

「皆さんははるばる十余カ国の境をこえて、命の危険をも顧みずして、私を訪ねてきてくださったその目的は、ただ往生極楽の道を問い聞こうということでしょう。しかるに、私が念仏よりほかに往生の道を知っており、またそれを明らかにした聖典も知っているのであろう、それをはっきり知りたい、と思っておられるのは大きな間違いです。もしそのような者に興味があるのなら、南都北嶺にも勝れた学僧がたくさんおられるから、その人たちにあって、往生のかなめをよくよく聞いてください。親鸞においては、『ただ念仏して弥陀にたすけられなさい』という、よき人法然聖人の仰せをいただいて信ずるほかに何の子細もありません。」

すなわち親鸞聖人は、昔住んでいた関東でも、今住んでいる京都でも、念仏一つで往生するという法然聖人の教えをただひとえに伝えてきただけで、それ以上、それ以下のことは何もない、ということです。親鸞聖人も「教師の握り拳」を持たれなかったということです。

上に挙げた釈尊のお言葉でもう一つ心を打つのは、「私は修行僧の仲間を導くであろう」とか、「修行僧の仲間は私に頼っている」という思いを持たれていないということです。つまり自分に教えを求めてきた弟子一人一人の人格を認め、その人たちを自分の従者だとは考えられなかったことです。これも親鸞聖人の「親鸞は弟子一人ももたず候ふ」という精神と一致しています。

このように釈尊の気概が脈々と親鸞聖人の中に受け継がれていることは、本当に希有でありがたいことだと言えましょう。（2009・12・9）

新井先生に許可を頂き転載させて頂きました。

先生の略歴：相愛大学名誉教授、文学博士（ハワイ大学）、浄土真宗本願寺派教師。

会長の挨拶

第７９回盆踊りが終わってから 24 時間も経っていませんがみんなで身を寄せ合ったあの冷たい雨をまだ肌で感じる事ができます。でも一緒に私たちはがんばりました。
別院理事会を代表しましてお盆委員会のチェアー浜川ロンに感謝します。彼のリーダーシップにより今年も大変成功に終わりました。
彼と委員会メンバーのたゆまぬ努力によりお盆をエンジョイ出来ます、天候が悪くても。
フローレンス・グエンと踊りの先生たちは私たちに人気の曲を指導してくれました。（炭坑節、ソーラン節、紅州音頭）それに新曲の（花火音頭）暗いところで見るのはナイスでした。
別院会員は今年も私たちの最大のファンドレイズの行事に奉仕されました。会員の多くの友人も来てくださいました。
お盆のために時間を費やして下さった皆様に多大な感謝いたします。
合掌　　森ポール

赤星ケンジ師との週末リトリート（英語）
「Practicing no Practicing」　赤星師はサンホゼ別院に属されます。9 月 23 日（金）夜 7 時より 25 日（日）12 時昼まで, バスティア・ユニバーシーティー、ケンモアにて. ＄175（別院会員）ダブルルーム、土曜日の食事、日曜日朝食込み.非会員は＄25 を追加。詳細は上西ゲールか別院事務所まで連絡

ちびちゃんバスケットボール
第 17 シーズンに入ります。ダーマスクール主催。4－10 才の男女児対象。9 月 25 日より 10 月 30 日まで。別院会員＄15、非会員＄20 会員レジスター8 月 22 日、非会員 8 月 29 日 定員数に制限りあり。申し込み用紙および詳細は英語面および別院ウェブに。

カストロ先生の奥様の母上にあたるさいぐさ・さちえ師がハワイよりみえて 7 月 3 日にご法話をしていただいた。
「念仏日記」というハワイでの思い出などとても感慨深いお話であった。

写真は市川サットより
さいぐさシュリ、カストロ先生、さいぐささちえ師

婦人会便り

会長のメッセージ　　八幡静江

雨の日にも拘わらず、１０名の婦人会会員の方々と会員方のご主人方、お友達、それに別院会員の方々が、ACRS フードバンクを支援する為の恒例の"Walk for Rice" に参加されセワードパークの周囲、２。５マイルを勇敢に歩かれました。 その日は寒く陰気で濡れ た日でしたが、みんなの気持はとても明るく、陽気そのものでした。この運動を支持して下さった方々、そしてこの行事に寄附をして頂いた方々にお礼を申し上げます。

別院恒例の１週間にも亘る長い KSP キャンプに出席され子供達のお手伝いをして思い出深い KSP にして下さいました沢山の婦人会会員の方々に 大いに感謝致します。会員の方々はお料理（川原律子とお手伝いの方々）、書道（藤井あい子と桑原絹枝）、それに華道等をお手伝い致しました。

デセプションパスとラッカーナーへの婦人会日帰り旅行のお世話をして下さった岡田マーリーン並びに花田ペギーにお礼を申し上げます。

８月行事予定
１４日（日） 午前１０時　婦人会恵信尼公／覚信尼公顕彰法要
２８日（日） 午前１１時４５分　婦人会キャビネット会議　　通信書記（日）新保エツ提出

日本語法要・プログラム予定

8月　7日（日）　日本語法要　ご法話　小杭好臣 BCA 総長

8月12日（金）　茶の湯レクチャー（英語）

「The Way of Tea as a Buddhist Path」　ヒロタ・デニス師・竹村朴美夫人

8月13日（土）　日本語セミナー　ヒロタ・デニス師、龍谷大学教授

「親鸞聖人の言葉を読む」

8月14日（日）　日本語法要　ご法話　ヒロタ・デニス師　（恵信尼公/覚信尼様顕彰法要の後）

8月21日（日）日本語法要　ビデオ法話　九条英淳師　「恩徳讃について」

8月28日（日）日本語法要　ビデオ法話　九条英淳師　「私はなぜ開教使になったか」

シアトル別院夏季日本語聞法セミナー

２０１１年８月１３日（土曜日）
午前１０時ー午後４時

ご講師：ヒロタ・デニス師
講題：「親鸞聖人の言葉を読む」
親鸞著作より重要な文章を採り上げ現代人としてその意味を考える。

廣田デニス師は龍谷大学真宗学教授、カリフォルニア、バークレー出身、翻訳または著書も多数出版されています。
皆様ぜひセミナーにご出席下さい。

チェックはシアトル別院宗教部（ Seattle Betsuin R.D. ）宛に。チェックと封筒に日本語セミナーと書いて、申込書と一緒に別院に送付して下さい。
1427 S. Main St. Seattle, WA 98144

登録用紙

日本語セミナー２０１１年８月１３日（土）１０時ー４時
費用　：１０ドル（昼食込み）　締切日：２０１１年８月７日

お名前＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

お電話＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

係り：桑原絹枝(206-723-6824), 川原律子(206-725-4958), 新保エツ(425-823-2096)